

## 災害事例

### 鉄筋積込み作業中にクレーンが 人間を吊り上げる—墜落災害

業 種 一般貨物運送事業

企業規模 労働者数31名

被災者 トラック運転手（玉掛者）

男子 49歳 経験9年

傷病名 左後頭部頭蓋骨骨折、脳内出血  
左肋骨骨折、左肺損傷（休業2カ  
月以上）

#### ☆災害発生状況☆

1. 鉄筋材を積載したトラック(11t車)を建築現場敷地内の舗装道路上に止め、5階建鉄筋ビル内架設の水平ジブクレーン(OTH-2030)にて屋上に鉄筋を荷揚げする作業を開始した。
2. 被災者は、トラック荷台上の結束された鉄筋束にワイヤロープを2点吊りにすべく最初の1本を玉掛けし、もう一方のワイヤロープを掛けようとしたところ急に吊り上げられた。
3. 水平ジブクレーンの運転操作は無線様式を使用していたが、運転者の位置から玉掛け作業位置は見る事ができなかった。
4. 無線合図の何らかの連絡ミスにより、1本吊り状態のまま荷を吊り上げたところ荷と共に被害者が吊り上げられ、高さ約6メートルの位置から墜落し被災した。
5. クレーン運転者も玉掛者も有資格者であった。

#### ☆災害発生原因☆

1. 玉掛け作業をトラック運転手1人で  
行なった。

2. クレーン運転の「巻上げ」の合図に連絡ミスがあった。
3. 合図も「巻上げ」の合図のみで「チョイ巻け」などの細かい合図がなかった。
4. 合図の不徹底。
5. クレーン運転者と玉掛者との間に監視人がいなかった。
6. 本来、玉掛者と運転者の間に合図者がいるべきである。
7. 作業の段取り、手順について打合せが不十分であった。

#### ☆防止対策☆

1. 玉掛作業は2人で行う（補助者を配置）。
2. クレーンマンが見えるところに監視人を配置する。
3. 鉄筋材の積み方不良のため玉掛けが難しく手間取ったことから積み方を改める。
4. 巻上げに際し、「微動巻上げ」と「巻上げ前の安全確認」を必ず行うこと。

以上の点から、玉掛作業においては、まず玉掛けをした場合は微動合図により地切りを行い、その後荷の水平等の安定を確認した上で巻上げを行うという基本動作を踏んでおれば防止できた災害と考えられる。

